

7番 米永 あつ子 議員

1 子育て支援について

(1) マタニティタクシー券発行について

突然の陣痛や非常事態で病院に行く必要が出た際に、協力者等が不在で運転が頼めない場合などに利用できる『マタニティタクシー券』を発行し、妊婦さんに「もしものときに使える」安心提供タクシー券を導入する考えはないか。

(2) 本市はこども家庭課内に、母子保健機能と児童福祉機能を有機的に結びつけ、子育て世帯や支援を必要とする家庭に対して切れ目なく一体的な支援を提供することを目的に「鹿屋市こども家庭センター」を開設し、妊娠や出産、こども、子育てに関する全般の相談や虐待や貧困、ヤングケアラーなどの課題を抱えた子どもに関する相談等を受け付け対応しているが、本市でのこども家庭センターの実際の運用と市民生活への影響について伺う。

- ① 子どもと家庭における相談対応は、こども家庭センターが窓口となっているが、相談件数とそのうちの児童虐待相談件数と推移を示されたい。
- ② 相談窓口体制について、こども家庭センター、配偶者暴力相談支援センターの相談業務を担当する人員配置について示されたい。また、各相談員の保持する資格等は活かされ、資格に応じた賃金体制となっているか、示されたい。
- ③ 子育て支援に関係するすべての相談業務を統括する役割の人又は中心となる人と、縦横の連携が図られているか。
- ④ 相談員の質は確保されているか。
- ⑤ 相談員は相談者へしっかりと寄り添っているか。
- ⑥ 教育委員会との連携はどのように構築しているのか。
- ⑦ 児童相談所との連携について示されたい

2 民間救急車の活用について

- (1) 鹿屋市における民間救急車の利用状況について、現状をどのように把握しているか。
- (2) 大隅肝属地区消防組合における救急搬送件数について、1年間の出動件数のうち、搬送件数と不搬送件数を示されたい。
- (3) 同組合の救急車と民間救急との連携体制はどのように構築しているのか。
- (4) 民間救急車の利用促進のため、どのような施策を検討しているか。
- (5) 民間救急への支援策として、移送費を健康保険で利用できるなど鹿屋市としての支援策は考えられないか見解を示されたい。